

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2775502533
法人名	医療法人 阪本医院
事業所名	グループホーム 悠久
訪問調査日	平成 21 年 3 月 6 日
評価確定日	平成 21 年 4 月 10 日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2775502533
法人名	医療法人 阪本医院
事業所名	グループホーム 悠久
所在地	大阪府八尾市山畑 5-1 (電話) 072-941-3222

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成21年3月6日	評価確定日	平成21年4月10日

【情報提供票より】(21年2月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 6 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤	16 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 5.1 人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3 階建ての 2 階 ~ 3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	22,000 円	
敷金	有(100,000 円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ○無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	600 円
	夕食	600 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	8 名	要介護4	3 名		
要介護5	5 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	65 歳	最高	98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人阪本医院 医療法人若草第一病院 医療法人山本歯科
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設4年目を迎える事業所は最寄駅から徒歩5分の交通便利な医療法人施設の一角にある。代表者は「グループホーム悠久」の横にある医院と介護老人保健施設で診療活動をしている。長年の診療活動で機能低下していく高齢者を見て地域の認知症で困っている人の一助になりたいと介護老人保健施設を立ち上げた。次に、近年認知症高齢者が増え、個人の対応に難しい限界を感じた代表者は自身も年をとったら住み慣れた環境の中で、温かいケアを受けたいと考えて当ホームを設立した。職員の笑顔が利用者や家族、訪問者を和ませる落ち着いた明るいホームである。管理者は「心接介護」を合言葉に優しさをもって地域密着サービスに取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善は、災害対策について地域の協働共助のきっかけづくりであったが 運営推進会議で地域で支え合う連携強化の必要性を提案し地域の「支え合いマップ」を作成する話し合いが進められている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は外部評価の結果をミーティングで話し合い、サービス評価の意義と目的を理解している。年2回の「自己点検表」を職員全員が継続的に実施し、自己のサービスを振り返り、見直しをしてサービスの質の向上に前向きに取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は地域の民生委員、高齢クラブ、市職員、利用者、家族、職員の出席で2ヶ月に一回実施している。最初は参加することに大変さを感じていた地域の参加者も、今では地域の情報を提供したり、グループホームを他で紹介する等、会議を重ねるごとに多くの理解と協力が得られるようになり事業所の運営に役立っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	利用者と家族は事業所に対しての信頼は大きく苦情や不安はなく安心して過されている。職員は家族が訪ねてきた機会にその時々々の状況を報告し情報提供を行っている。家族は運営推進会議にも参加して外部者と話し合う機会を持っている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者は住みなれた近隣の方が多く地域での顔なじみも多い。代表者の地域医療活動もあって、事業所に対する住民からの理解と協力、信頼を多く得られている。地域での行事参加の時などは、地域の青年団の介助協力を頂いたり、地域の観光バス会社の協力でバス旅行が実現出来るなど、地域住民の理解と協力に事業所は大変感謝している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	従来の母体組織の理念を見直して「地域に溶け込み、ふれあい、地域と支え、支えられる関係を作る」という事業所として独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関入り口のエレベーター前やみんながよく目の付きやすい場所に掲示されている。朝の引継ぎ時に理念を唱和し共に意識し日々の支援の中で活かすように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭りや文化祭への作品出展の誘いを受けたり近隣の保育所や児童の訪問を受けるなど地域の人々と交流はされているが事業所から地域への働きかけの機会が少ない。	○	利用者と地域住民は一過性のふれあいでなく共に暮らす地域の一員として自治会や老人会、婦人会などに加入するなどしてホームからの情報発信や公民館活動など地域活動に積極的な地域交流に取り組んでいくことが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は自己評価と外部評価についてミーティングの場で話し合い目的と意義は理解している。半年に一回の「自己点検表」を職員全員が継続的に実施し自己のサービスを振り返り、見直しをする等サービスの質の向上に前向きに取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には民生委員、高齢者クラブ、市職員、利用者、家族、代表、職員の出席者で2ヶ月に一回行われている。会議を重ねる毎に多くの意見と理解を得られている。それらを事業所の運営に反映している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホームを対象にした市の「介護プロジェクトチーム」に入っており、運営について相談している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ほとんどの利用者の家族は毎月訪問しているので、その都度状況は説明している。健康状態、金銭管理についての報告は訪問時に報告し同意を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の事業所への信頼は大きく利用者の日々の生活には安心している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員同士の雰囲気はとても良く 開設時から離職者がいない。職員の間関係がよく「やさしさ」をモットーにしており、それが利用者や家族の安心と信頼に繋がっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外部の研修はよく行われている。毎月一回の法人全体の内部研修では各部署の活動内容や取り組みの発表と問題点の取組みの研修があり、参加できなかった職員にはミーティングで報告している。外部研修への参加は業務扱いにするなど、研修の機会を多くもてるように環境作りをしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くの同業者と交流し情報や意見交換をし日々のケアに活かしている。管理者は今後、もっと多くの同業者との交流を広げるネットワークをつくりたいと考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前に職員が利用者の自宅へ面接に行き、その後本人にホームへ来て頂き、「一日お楽しみ体験」をして頂くなどして、段階を踏みながら徐々に馴染めるように取り組んでいる。本人の安心と納得を得ながら利用を開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日々の暮らし中で人生の先輩として学ぶ事、支えられている事が沢山あると感じている。利用者の何気ない「有難う」の言葉の中に感動をおぼえる事も多い。利用者や家族がともに安心して楽しく過していけるように努力し支援している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の個性や能力をよく把握し安心した生活が出来るように支援している。「心接介護」をモットーに職員は利用者の意向に沿いながら、優しくゆったりした気持ちで支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入所時に利用者と家族からは是までの生活や希望などを聞きそれをベースに利用者の視点にたつて、安心して暮らせる様に介護計画は作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	個別計画書にはその時々々の状況を詳しく明記している。3ヶ月ごとにカンファレンスをし、6ヶ月ごとに見直しをしている。状況変化がある場合はその都度話し合いをして、見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者と家族の希望や要望には必要な時に必要なサービスを状況に応じて柔軟に行っている。医療連携体制も確保出来ており安心して過せるように支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	代表者の医院が隣接しており、ほとんどの利用者は入所前からかかりつけ医としてお世話になっている。健康管理では緊急時でも24時間の対応がされており利用者と家族は安心している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した時の対応は入居時に説明し同意を得ている。過去に終末ケアの経験もある。可能な限り利用者、家族の意向に沿ったケアが出来るように主治医と連携をとりながら支援している		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーを損ねることのないように入浴時や排泄時には言葉かけに気をつけたり、名前を呼ぶ時は「ちゃん」呼ばわりしないように言葉かけや状況の配慮に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間、入浴時間、散歩、買物などは利用者一人ひとりのペースに職員は合わせるように工夫している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事メニューは調理師資格者の職員が中心となつて利用者の意向等を聞きながらメニューを作っている。一緒に買い物に行き準備や後片付けをしている。職員と利用者は一緒に楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴を楽しめるように入浴時間帯は自由である。一人ひとりの希望の時間に合わせ、本人の意向にそつた入浴支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者はカレンダーの日めくり、テーブル拭きや食前の手洗いの消毒かけなどの役割をはたしている。職員は編み物、貼り絵、習字など利用者の趣味や特技を把握しており、利用者の楽しみごとを作り出すように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援している	天気の日には出来るだけ買物や散歩に出かけるようにしている。月一回の夕食やお弁当持ちの遠出の行事を利用者は楽しみにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は安全を確保しながら夜間以外はかけていない。利用者で気持ちが不穏になって外へ出たがる場合は一緒に周辺を散歩をしたりして気持ちを落ち着かせるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の指導で昼と夜の災害を想定して避難訓練をしている。運営推進会議で災害時の地域との連携強化の一環として地域の「支え合いマップ」を作ることを話し合つて準備を進めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は利用者ごとに記録され水分量も確保されている。職員による家庭的な献立メニューであるが、カロリー計算がされていない。	○	カロリーの過不足や栄養の偏りが起きないように定期的に、栄養士によるチェックが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間はゆったりして広く明るく安心して過せる場が整えられている。廊下にはソファが置かれ。壁には利用者の写真や作品が飾られている。、室内のあちこちには季節の植物なども置かれて落ち着いた雰囲気を提供している。。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各利用者の居室には洗面台が設置されている。家族写真やタンスや椅子など使い慣れた馴染みの物や、仏壇など持ち込まれて、その人らしく居心地よい居室が作られている。		